

○菊地恵一委員長 続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。阿部眞喜委員。

○阿部眞喜委員 よろしくお願ひします。熊谷委員が三十秒も残して、心の準備がまだできていなくて大変申し訳ございません。それでは質問させていただきます。

前回の六月補正予算でしたが、国から来た金額が十億円ということで、県の一般会計からも一億円を追加し十二億円でした。その際に会派として補正予算に対する質問をさせていただきまして、秋の補正に期待するという内容でしたけれども、今回は八百八十三億円という結果でした。宮城県として期待していた金額であるのか、まずは見解をお願いいたします。

○村井嘉浩知事 今回の補正予算は、記録的な渴水への対応や七月の津波で被害を受けた養殖施設の災害対応など、早急に対応が必要な予算を計上いたしました。なお、国では、経済対策の取りまとめに向けた動きもあることから、引き続きその動向を注視するとともに、必要な対応を迅速に進めてまいりたいと考えてございます。十分かどうかという点は、今の段階でなかなか申し上げにくいということでございます。

○阿部眞喜委員 まだまだこれからもっと必要かなというところなのではないかなと思いますので、また次にも期待しながら進めていただければなと思います。

続きまして二番です。カムチャツカ半島付近を震源とする地震に伴う津波への対応についてということですが、七月三十日に発災したカムチャツカ半島付近を震源とする地震ですけれども、市内に災害緊急放送が流れた際に一体何が起きたのだと驚きましたが、なかなか解除されない津波警報で国道四十五号が封鎖され、家に帰るのも大変な状況でした。まずは安全第一ということを考えると、いま一度防災に対し考えるきっかけになつたなと言えます。津波は陸の上まで上がらず安心したわけですが、心配したのはやはり次の日の海の養殖現場です。私も漁師の方々に連絡をとり、現状をお聞きはしましたが、県として押さえている現在の被害状況の御説明をお願いいたします。

○中村彰宏水産林政部長 水産業関連の被害額でございますが、今月十六日現在で合計二億八百三十九万七千円と報告されております。このうち、特に被害が大きかった気仙沼市におきましては、カキ、ホタテガイなどの養殖施設の流出・破損等で一億二千七百九十六万四千円、生産物の落下等で六千二百七十万九千円の被害が報告されております。

なお、気仙沼市大島地区などにおきましては、復旧作業と並行して被害の調査が行われております。現時点では詳細が明らかになっておりませんので今後水産物の被害額が増える可能性があるものと考えております。また、気仙沼市以外の複数の市町におきましても、カキ、ホタテガイ、ホヤの養殖施設や水産物の被害のほか、定置網や刺し網の破損などが確認されております。合計千七百七十二万四千円の被害でございます。引き続き被害状況の早期把握に努めてまいりたいと考えております。

○阿部眞喜委員 災害は急にやつてきますので、自然と鬨いながら誇りを抱いて育てる海産物でございますので、宮城県の全国に自慢できる水産物のためにも、今後もスピードイーな寄り添つた対応をしていただければと思いますので、よろしくお願いたいいたします。

続きまして、地域ポイント導入支援事業についてですが、現在のダウンロード数は七十三万人ということでございましたけれども、間違いないか確認をお願いいたします。

○梶村和秀企画部長 デジタル身分証アプリの登録者増加、それから県民の防災力向上、地域経済活性化を目的としまして、新規登録者にみやぎポイントを付与するキャンペーングを昨年から実施しておりますが、その効果もございまして、デジタル身分証アプリポケットサインの登録者数は、今月十八日現在で七十二万九千百十一人となつております。登録者数は着実に目標に近づいておりますが、アプリ自体の魅力や必要性が県民に十分理解されていないと継続的な利用に結びつかず、次の大災害に備えるという本来の目的を達成できないため、平時に利用できるアプリの充実に努め、平時における利便性を高めることで、いざというときに備えてまいりたいと考えてございます。

○阿部眞喜委員 目標に向かってということでございますが、こちらですけれども今回のカムチャツカ半島の津波においてはどのような発信をしたか、一例があればお願いいいたします。

○高橋義広復興・危機管理部長 みやぎ防災アプリでは、気象警報等が発表された場合、災害情報共有システム、いわゆるレアラートから発信される情報をもとに、警報等が発表された旨をプッシュ通知にて自動発信することとしております。今回のカムチャツカ半島付近の地震に伴う津波では、我が県を含む地域に津波注意報及び警報が発表されたため、その旨をプッシュ通知により発信したところでございます。

○阿部眞喜委員 プッシュ通知ということですので、携帯の画面にそのまま表示されるということでは、開封率というか確認は九割ぐらい取られていると思うのですけれども、開封率みたいなことというのはデータとして調べているのか教えていただけますか。

○高橋義広復興・危機管理部長 みやぎ防災アプリに限らず、デジタル身分証アプリそのものにプッシュ通知の開封状況を確認するという機能がございませんので、県としまして現時点で開封率を把握することはしておりません。

○阿部眞喜委員 かしこまりました。そこで、ダウンロード数は私はもちろん目標を決めるのはいいと思うのですけれども、ここがゴールではないので、いかに防災の際に活用されるかというところが本当に一番のポイントかなと思います。やはり民間企業ではできないところを行政でやるという目線で見ると、ここはしっかりとダウンロードしていただいて、県民を守るということではないかなと思います。そこでなのでお金が使われるというのは悪いことではないのではないかと思います。そこでなのでそれが使われるというのは悪いことではないのではないかなと思います。そこでなのでけれども、これは今後県として有益な情報発信ツールになり得ると思うのですが、先ほど午前中のお話でもアンケートをとるということや、高齢者の方たちのために新しい施策というか内容を打つていくということでしたけれども、今後の県のポケットサイン、身分証アプリの立ち位置というか見解があれば教えていただけますか。

○村井嘉浩知事 国はガバメントクラウドということで、自治体——いろいろな市町村含めてやつておりますシステムを共通基盤にしようと、大変なお金をかけてやろうということを考えています。でもそれはもう当然国のほうにお任せして、県は、県と市町村と県民を有機的にネットのようにしてつないでいくというような形にしていければなとうふうに思っています。したがって、今は一部の市町村で、例えば丸森が地域ポイントを一緒にやつていただきたり、あるいは岩沼でも一緒に事業——確か図書館等の貸出しシステムだったかなと思うのですが、ちょっと正確なものではないのですけれども、そういうことを一緒にやろうと、あるいは、幾つかの自治体でこのデジタル身分証アプリと一緒に活用しようという動きがだんだん出てまいりました。私としては、いろんな形をするに当たって、何もかも県がやるのはなくて、市町村と一緒になっているものをシステム開発していくと。作ったものを一つの自治体だけではなくて、県内のいろんな自治体に活用してもらうといったようなことをしていくと開発費が非常に安く

なりますし、利用料もだんだん落ちていきますので、そういう形で市町村と一緒になつてどんどんいいものを作り上げていくことが何よりも重要なのではないかなどいうふうに思います。あともう一つは、民間の企業が非常に——やはり七十万人を超えたということで関心を持つていただいておりますので、いろんなマスコミであったり金融機関であつたり間違いなく悪いことをしない大きな企業ということになりますけれども、そういう形で連携をとつて、直接県民にとつて必要な情報を流していく形にしていなければいいのではないかなどと考えているところであります。

○阿部眞喜委員 私もJR東日本と東京の企業と組んでガマコインというものを作った経験がありますので、地域ポイントの普段使いの難しさというものは誰よりも多分分かっていると思います。先ほどチャージという話もありましたけれども、これは厳しい言い方をするとチャージは絶対しませんので、チャージではなくて、例えば失効ポイントです。ANAとかJALとかいろんなポイントがあると思うのですけれども、失効ポイントをみやぎポイントに使えるように連携するとなると、あちらの企業側からこちらに来ると。それを寄附アプリのように使えるようにすると面白いのではないかなど思っています。それを逆に言うと、このアプリにも入っていますけれども、ボランティアをしてくれた方に振るポイントとして使えれば、それが今度はまた地域に回るというような形にすると循環して使えるのではないかなど。ベネフィットが確か一億ポイントぐらいを毎年失効していますので、そういうところを連携すると自然とポイントが入つてくるという形になると思います。例えば、職の紹介をしたときに、それが今度お祝い金としてポイントを出したりとかもできるようになりますし、ポケットサインがどこまでそこに対応してくれるかということになりますけれども。例えば、イベント情報を提供する。そこで千円で売りますよと言えば稼げるアプリにもなるのではないかなど思っていますので、可能性は十分いっぱいあるのではないかと思っています。ただ、宮城県が作っているものではなくて連携しているものになるので、いかにポケットサイン株式会社ができるかということをしっかりと聞いた上で、先ほどのような提案をぜひ飲んでいただきたいなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○村井嘉浩知事 非常に面白いアイデアだなと思っています。早速検討していきたいというふうに思います。

○阿部眞喜委員 以上です。ありがとうございました。